

よみがえる火見櫓

伝説の
ひのみやぐら

市姉妹都市交流センター跡地を「高槻城公園北エリア大手地区」として城下町らしいスポットに整備します。その目玉は現代に再現する火見櫓です。

問合 歴史にぎわい推進課／Tel674-7393 ID 004419

カフェ・レストランなどの
飲食店も入ります

大手町（国道171号沿い）にそびえる火見櫓。
1階には休憩スペースも併設します



進む
北エリア
整備

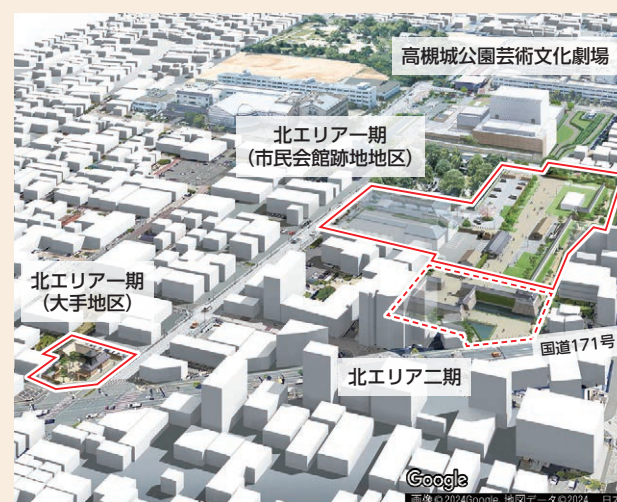
令和8年度末に一次開園

かつて北摂唯一の近世城郭として重要な役割を果たした高槻城。当時の風情を感じられる公園を、高槻城公園北エリアとして、市民会館跡地地区と大手地区に整備します。

今後、北エリア一期は令和8年度に開園、二期は9年度以降に着手を予定（右図）。城下町らしい歴史空間としてリニューアルします。

北エリアの整備スケジュール

- 令和7・8年度
一期エリア工事。一次開園
- 令和9年度～
二期エリア設計、工事。二次開園



【市民会館跡地地区】 ※詳しくは本誌令和6年8月号で掲載
高槻城三の丸に位置します。一期には、土塁や土堀、東屋、武家屋敷風の公園トイレなどを整備。民間飲食店なども誘致します。二期（高槻警察署の移転後跡地）には、櫓（やぐら）や枳形門（ますがたもん）などの建造物を整備し、城郭らしい景観を形成します

過去から
現代へ

大手地区にランドマーク

大手地区には、かつて高槻城下町を見守った火見櫓を設置します。

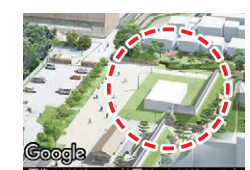
これまで高槻城下町に火見櫓があったことは分かっていたましたが、実像は不明のままでした。しかし、一昨年に、火見櫓が写った明治初期の古写真を発見し、それが契機となって再現に結び付きました。

当時の火見櫓は、高い場所から城下町を見渡すことでいち早く火事を見つけるための建物。災害時には半鐘（はんしょう）を鳴らして住民に危険を知らせる重要な施設でした。

新しい火見櫓は、城下町を彷彿とさせ、行き交う人々を見守るランドマークとなって復活します。

カフェ・レストランも設置

高槻城公園をより多くの人に親しんでもらうため、一次開園に合わせて民間飲食店などの店舗も2カ所にオープンします。公募制で、4月から募集を開始予定。魅力的な公園整備に向けて、応募をお待ちしています。



市民会館跡地地区
店舗設置者を募集



大手地区
入店者を募集

次のページで、復活する火見櫓の歴史的価値を紹介します→

教えて！ 火見櫓のこと

高槻城公園北エリア大手地区にできる火見櫓。いったい何のためのどんな建物だったのでしょうか？火見櫓の実像に迫る古写真を見つけた、しろあと歴史館の千田館長に聞きました。



千田康治さん

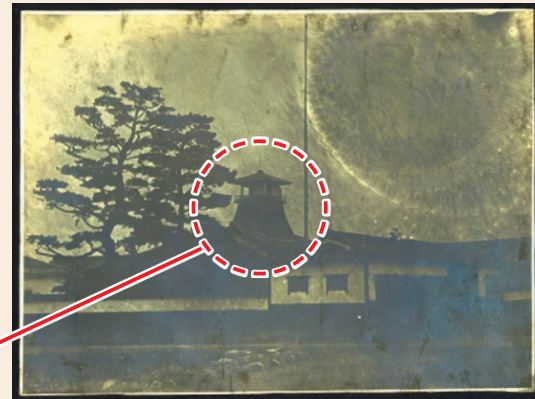
しろあと歴史館の館長。美術・工芸品のスペシャリスト。高槻城やその城下町の研究にも取り組んでいます

Q 何がすごい発見だったの？

A 長らく詳細や所蔵先が不明だったものが明らかに

私が見つけたのは、明治時代初めの古写真です。長らく詳細が不明でしたが、令和5年に高槻小学校創立150周年記念展示のため調査した際に、同校で写真を発見し判明しました。手前の白壁の建物が当時の高槻小学校です。火見櫓再現への重要な資料となりました。

背景として偶然映った櫓。私が見つけたのも本当に偶然。思わずアッと声が出て、この奇跡的な出会いに胸が熱くなりました



手前は、明治時代初期の高槻小学校で、高槻藩藩校・文武館を転用。その後ろに見えるのが、江戸時代から建つ火見櫓です

Q 火見櫓は城下町のどこにあったの？

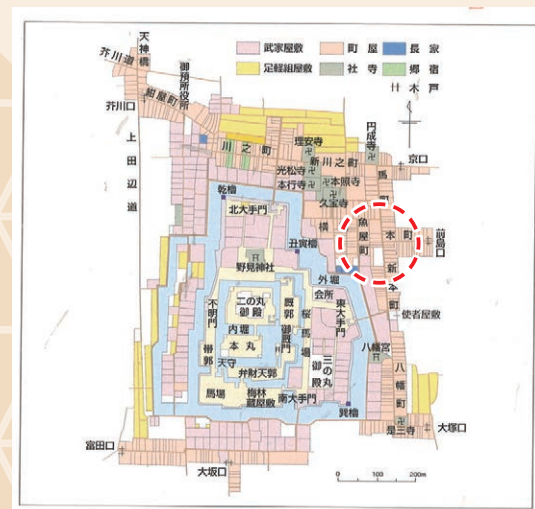
A 現在の上本町です

火見櫓は、江戸時代の本町（現在の上本町）にあった町会所（まちかいしょ）という建物の上に設けられていました。城下町の中で特徴ある建物で、上の古写真で実像が判明しました。

高槻城下町は本町・魚屋町など11の町で構成。町会所は、町の行政を担い、町の運営のための会議を開く場所でした。



火見櫓のあった町会所は、町の自治に不可欠な施設。たくさんの人々に利用されていました



江戸時代の高槻城下町の地図。赤い丸部分が火見櫓のあった場所（本町）

Q 火見櫓はどんな建物だったの？

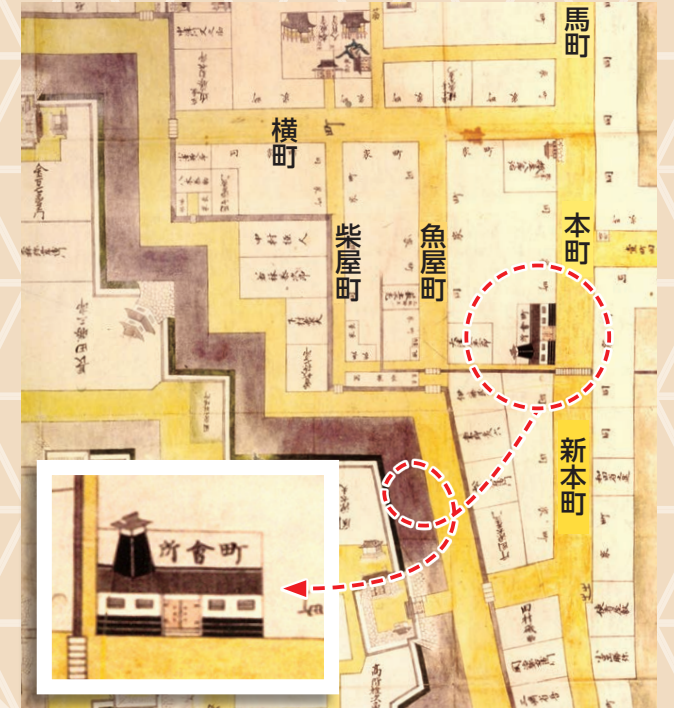
A 町会所とセット、他に類を見ないつくり

火見櫓は、上から町を見渡し、火事を見つけたら備え付けの半鐘（小型の鐘）を打ち鳴らして、町の人々に知らせました。

町会所の上の火見櫓は、重量軽減のためか木組み（はしご）だけの吹きさらしのもが多く、高槻のように四方を板張りにした本格的な造りは珍しいものでした。町を見守る堅固な火見櫓は、人々に安心感を抱かせたことでしょう。



しろあと歴史館の高槻城模型での火見櫓。常設展示していますので見つけてみましょう



江戸時代終わりごろの高槻城絵図に描かれた城下町の火見櫓。「町会所」の上に建つ様子が確認できる
※絵図は町名を目立つように加工

しろあと歴史館では高槻城や城下町の歴史を展示しています。ぜひご家族や友人と遊びに来てください



Q 現代に再現するとどんなものになるの？

A 高槻城下町へと誘うランドマークへ

住民の安全を担い、町を火災から守った火見櫓は、城下町の人々にとって象徴的な存在であったと考えられます。

城下町の人々を見守っていた火見櫓が、新たに復活して城下町を訪れる人々を迎え入れるランドマークとなり、親しまれることを期待しています。皆さんもぜひ楽しみにしてください。



櫓の上には、かつて市内で使われたと伝わる半鐘を設置する予定です。町会所の内部は、歴史ガイドンスとして活用することを計画しています